

小中学校における制服・新入学用品等の購入に関する提言書

保護者負担の軽減と「すべての子どもにやさしいまち」のために

令和6年2月29日

松本市教育委員会教育長 伊佐治裕子

教育長職務代理者 小柳 廣幸

委員 佐藤 佳子

委員 春原 啓子

委員 福澤 崇浩

制服・新入学用品等の購入に関する保護者や中学生からの主な意見

(令和5年9月～10月開催の松本市PTA連合会・市内中学生との意見交換会から)

引き出しは、卒業後、家に持ち帰ってきても使い道がないので、学校内で使い回してほしい

制服（夏服）を買っているのに、ポロシャツも買わなければならないのは無駄が多い

鍵盤ハーモニカは使用頻度が低いにもかかわらず、兄弟全員分購入する必要があった

中学校の鞆の校章が違うので、使用後に譲ることができない。校章がなければ校区を超えたりユースも可能になる

色鉛筆やはさみなど、幼稚園や保育園で購入して持っているものを、小学校入学時にも購入する必要があった

共働きの家庭が増える中で、算数セットに名前シールを貼る作業は大変。個人所有の必要はないのではないか

指定の鞆とは別にスポーツバッグを持っていくので、鞆も指定でなくてもよいのではないか

指定されるよりも自由なほうが、機能性も見ながら自分に合ったものを選べる

食料品は毎日少しでも安いものを買うよう努力しているのに、学用品はワンプライスというのはいかがなものか

もう少し販売店を増やして価格の競争をすれば、今より価格も下がるのではないか

制服・新入学用品等の購入に関する課題と見直しに当たっての視点

1 購入の必要性

本当に全員が購入しなければならないものか
前例踏襲に陥ることなく、必要性が検討されているか

3 統一規格である必要性

全員が統一して同じものを用いる必要があるか

2 リユース

家庭内、知人間、学校内で再利用できるものはないか
不用品を譲り合い、リユースを促す仕組みや機会をつくる
ことができないか

4 公平、公正な納入方法

購入価格決定、業者選定に公平、公正な方法が採られているか

5 学校間の差

学校間で保護者負担に著しい差が生じていないか



統一規格の入学時購入物品の中に、類似の品物で代替できるものや色や形だけを指定し、あとの判断は保護者に委ねることができるものがあれば保護者も児童生徒も多様な選択が可能となり保護者負担の軽減と「すべての子どもにやさしいまち」につながると考えます

多様な選択を許容できる仕組みづくりと
学校と保護者及び児童生徒の意見交換の場づくりを